

論壇

人生にある三つの坂

少し前によく聞いた小話がある。人生には三つの坂があると。いう。上り坂、下り坂、そして三つ目の坂が「マサカ」であるそうだ。経済でもこの「マサカ」になることがある。私の人生の中では、1970年代の石油ショックと、90年から続いたバブル崩壊、それに続く金融危機がその典型だ。

突然起きる「マサカ」の変化。それを転機に経済構造が大きく変化してしまう。73年には中東戦争をきっかけに日本に石油が入ってこなくなった。銀座など繁華街の

伊藤 元重 (国際経済学) 学習院大教授

ネオンが消えたのは衝撃的な光景だった。人々は洗剤やトイレットペーパーの購入に奔走し、店頭から商品が消えた。現在の光景に似ている。この年の物価上昇率は23・2%であった。

石油ショックを転機に、日本経済の構造は大きく変わる。日本の高度経済成長は、この年をもって

年の12月にはあの衝撃的な山一證券の倒産が起き、翌年から日本は金融危機に陥る。世界的な金融危機はそれから10年近くたった2008年に起きるが、すでに危機を経験している日本にとってはそれまでの延長のようなものであった。

バブルの崩壊をもって、日本経

「マサカ」の大転機時代

終わる。高度経済成長を支えてきた鉄鋼や石油化学などの重工業は、花形産業から斜陽産業になってしまった。当時は、産業が重厚長大から軽薄短小に変わると言われた。

もう一つの大きな「マサカ」が、90年に始まるバブルの崩壊だ。97

済の右肩上がりの時代は終わる。それ以前には日本経済の強さの象徴であった仕組みが大きく揺らいでくる。年功賃金や終身雇用、メインバンク、高度な下請けのネットワークなどである。そうした制度を修正する中で日本経済は大きく変わろうとしている。ただ、そ

の先の姿が描けているわけではない。

危機の終着点見えず

そうした中で、今回の新型コロナウイルス問題である。経済への影響という意味では、石油ショックや金融危機という過去の大きな危機に勝るとも劣らないような大変な状況である。欧州の政治家は「これは戦争である」、というような発言をしているが、町から人が消え、空港から飛行機が飛び立たない姿は、まさに戒厳令の状況である。残念ながら今回の危機の終着点はまだ見えてこない。ウイルス感染の拡大が収束しないことには、その先の展開も見えてこないからだ。

各国の政府や中央銀行は、過去

最大級の政策対応を準備している。そうした政策が必要なのは間違いないが、どんなに政策的な刺激をしても、ウイルス感染の広がりが止まらない限り、景気を浮揚させる効果はあまり期待できない。当面は、雇用対策や企業への資金繰りの支援など、ウイルス問題で大きな影響を受けているところへの集中的な支援という形になるだろう。

本格的な景気浮揚策は、ウイルス感染が一段落してからにならざるを得ない。経済活動が止まっているときに、景気浮揚策が有効とも思われないからだ。いずれにしても「マサカ」こんなことになるとは、少し前まで誰も考えなかっただろう。私たちは大きな転機の時代に突然入ってしまったのだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。